

[原著論文]

国際交流における受け入れと海外派遣に関する一考察

——大連外国語大学の取り組みを中心に——

黄 冬柏¹⁾，沙 秀程²⁾，荻原 桂子³⁾，劉 鵬⁴⁾，謝 広宜⁵⁾

A study on Student's Acceptance and Dispatch in through international exchange : With a Focus on Efforts of Dalian University of Foreign Languages

Dongbai HUANG¹⁾ , Xiucheng SHA²⁾ , Keiko OGIHARA³⁾ , Peng LIU⁴⁾ , Guangyi XIE⁵⁾

Abstract

In this paper, the authors first confirm the government's policy and the current status of the acceptance of the international students and the Chinese students studying abroad, and then conduct research on the actual situation of Dalian University of Foreign Languages. And after that, they discuss some issues of accepting the international students and the Chinese students' studying abroad in terms of international exchange by closely examining the above university's recent programs to experience Japanese culture.

KEY WORDS : International exchange, acceptance, dispatch

1) 九州共立大学経済学部
2) 九州共立大学共通教育センター
3) 九州女子大学人間科学部
4) 大連外国語大学ソフトウェア学院
5) 大連外国語大学ソフトウェア学院

1) Kyushu kyoritsu University, Faculty of Economics
2) Kyushu kyoritsu University, Career and General Education
3) Kyushu Women's University, Faculty of Humanities
4) Dalian University of Foreign Languages, School of Software
5) Dalian University of Foreign Languages, School of Software

1. はじめに

経済のグローバル化が進展する中、大学の国際化・人材の国際化のため、留学生の受け入れと学生の海外派遣が求められている。新型コロナウイルス感染拡大を受けて多くの大学が受け入れと海外派遣をやむを得ず中止・延期させられている。しかしながら、各国の学生が海外留学に対する想いは途絶えたわけではなく、コロナ禍が収束する時期を伺い、大学情報の検索や、留学のための外国語学習などの準備を継続して行っているのは現状である。本学においては第3次中期経営計画(2019年度～2023年度)の基本目標の一つとして「海外協定校との国際交流を促進する」ことを定めた上、具体的な施策として、国際交流システムの構築に向け、海外協定校との連携の充実や、グローバル化への対応の強化などを掲げている。つまり、学生支援の一環として、海外協定校との国際交流を通して、海外協定校からの留学生の受け入れを促進しながら、本学学生の国際社会への関心を高め、海外留学に繋がっていくのである。

本稿では、海外協定校である大連外国語大学における国際交流と留学生受け入れの体制および日本への学生派遣の実態を調査し、とりわけ大連外国語大学ソフトウェア学院の取り組みについて考察しながら、国際交流および留学生の受け入れと派遣に関する諸問題について考えてみたい。

2. 大連外国語大学における国際交流について

美しい港町の大連に位置する大連外国語大学は、遼寧省が所管する公立大学であり、中国の東北地域で唯一の外国語大学でもある。大学は1964年に「大連日本語専門学校」として発足した。日中国交正常化の8年も前の時期だが、当時の周恩来総理が、日中両国が将来国交正常化になれば日本語人材が欠かせないとの見通しから、学校の設立を指示したのだという経緯があった。その後、1970年に「遼寧外国語専門学校」に改名し、1978年に4年制の本科大学である「大連外国語学院」となり、2013年4月には現在の「大連外国語大学」に改称された。創立50余年以来、大連外国語大学は「崇徳尚文・兼収並蓄」という学是の精神に則り、外国語教育を主としつつ、国際化教育を特色とした言語学・文学・管理学・経済学・工学・法学・芸術教育を行う総合的な外国語大学として発展を遂げてきた。

大連外国語大学は中国教育部(日本の文部科学省相当)直轄の国内外各種検定試験の組織機構であり、中国の国費留学生を対象にする外国語トレーニングセンター、教育部認定の20余りの専門試験の会場、推薦による修士課程の履修可能な大学(教育部認可)である。また教育部認可の中露大学生交流拠点校、国の中国語国際普及の拠点校、国の孔子学院専任教師の養成学校、教育部認定の中国政府奨学金取得者の受け入れ大学、教育部認定のホンコンの大学との交流プロジェクト加入大学、中国国際青少年交流センター(大連)、ウクライナ研究センター、遼寧省人文社会科学重点研究基地、遼寧省国際型外国語人材養成モデル実験校、ロシア世界基金が中国における二番目のロシア語センターなど、多くの領域にわたり、多彩な展開が見られる。

大連外国語大学は現在敷地面積約126万平方メートル、総建築面積50万平方メートルを有し、1100名以上の教職員が在籍し(そのうち、専任教員は650余人、外国人教員は63人)、約15000名の学生が在籍している。大学には日本語学院をはじめとする21の教育部門と27の研究機関が設置されている。学部生の専攻分野は33分野あり、修士学位を授与できるのは25分野である(4つのMTI修士授与資格が含まれる)。また、「東北アジア外交事務に従事するハイレベル人材養成」において、博士学位の授与資格を有する。全学では開設された外国語が日本語・英語・ロシア語・フランス語・ドイツ語・朝鮮語・スペイン語・アラビア語・イタリア語・ポルトガル語など、10言語にも達しており、そのうち、日本語・朝鮮語・ロシア語・英語は教育部認定の特色専攻であり、日本語・朝鮮語・ロシア語・英語・ドイツ語は遼寧省のモデル専攻となっている。また、日本語・ロシア語・英語は「遼寧省総合改革実験専攻」であり、日本語言語文学・ロシア言語文学・英語言語文学・スペイン言語文学は遼寧省の「重点学科」である。そのうち、大学の中核たる日本語学院は、100名(日本人教員14名を含む)の専任教員、約3000名の学部生と270名余りの大学院生が在籍しており、教職員数と学生数は中国の国公立大学の日本語学院(学部)として一番多く、日本以外では世界最大の日本語教育拠点とも言えよう。

大連外国語大学は国際交流を重視し、優れた成果を上げている。本学を含めて日本(40校)・ロシア(36校)・韓国(27校)・アメリカ(13校)など37の国と地域における232の大学および企業団体との協力関係を構築し、協同で学生を育成している。毎年約150名の学生を国費で海外の大学に派遣すると同時に、2015年から現

在までに日本・ロシア・韓国・オーストラリア・ニュージーランドなど69の国から長期・短期および語学研修や文化体験の留学生を8536人受け入れており、中国の東北地域における最大の留学生学習拠点となっている。大学は今現在、日本・ロシア・韓国・コロンビア・ガイアナ・ブラジル・アルメニア・ポルトガルなどの国に孔子学院を10か所開設した。¹⁾

大学の18の学院の一つである漢学院は、主に留学生を対象に中国語研修および学部と修士課程を提供し、常に1500名以上の留学生が在籍している。漢学院は1985年に設立され、1981年から短期中国語教育プログラムが実施されてきた。1993年に留学生向けの中国語学科が発足した後、2009年に中国語国際教育修士課程(MTCSOL)が開設され、中国における重要な留学生に対する中国語教育機関である。現在、漢学院はHSK(中国語検定試験)の大連における試験会場であり、²⁾中国語を海外に紹介する重要な教育機関である。漢学院は、創設して以来、長期・短期を合わせ、約60ヶ国からの留学生を約1.5万人余り育成してきた。近年、毎年約1500人の海外留学生を受け入れ、30ヶ国・地域の20の大学、また40の民間組織と友好協定を締結している。漢学院の卒業生および研修生は帰国後それぞれの母国で外交・貿易・教育・文化交流などの領域において学習成果を生かして重要な役割を果たしている。

漢学院の教授陣は教授・准教授をはじめ約60名おり、全員が修士以上の学歴である。教育キャリアに富み、また海外で中国語教育経験のある教員が多くいる。現在、中国語研修・中国語学科・中国語国際教育学科・中国語国際教育修士課程・言語学と応用言語学修士課程の5専攻が置かれている。在籍している留学生は、学部生・院生と研修生に分けられている。学部生の履修期間は4年間で、申込資格は高校卒業・HSK 3級取得者である。修士課程においては3年間でHSK 6級取得が必須条件である。研修生は中国語を学ぶ学習者のことである。学歴生と研修生は学習課程に合わせてそれぞれのカリキュラムが組まれている。例えば、「漢語研修生」は、外国人留学生のために設けられた科目を履修する。必修科目は中国語の読解・ヒアリング・会話・作文・新聞雑誌読解・中国事情などがある。また、選択科目としては、ビジネス中国語・観光中国語・HSK受験指導・中国書道・中華料理作り・中国武術・中国民族音楽などが設けられている。さらに、「中国語スピーチコンクール」・「運動会」・「文化体験」などのイベントや学外活動も行い、学生の生活を充実さ

せている。こういった科目の履修を通して、実践的な中国語を習得するとともに、歴史や文化面での知識も深めることができる。

遼寧省政府から全面的なバックアップを受け、大連外国語大学は充実した奨学金制度から宿舍の整備・学習の指導まで、様々な支援策を積極的に打ち出して、優秀な留学生の受け入れや確保に力を入れている。学歴教育(学士・修士・博士課程)においては、優秀な留学生をより多く獲得するために、奨学金給付の種類や総額は年々増加している。中国政府と遼寧省政府の奨学金および孔子学院奨学金のほか、大学独自の「漢学院奨学金」なども設けられている。大学の各関係部署は緊密に連携して、留学生のためにできる限りのサービスを提供している。広大なキャンパスの中に環境も質もよい、しかも経済的な国際文化交流センター宿舍を確保し、より多くの留学生が入居できるようになった。また、年間を通して開催される大学祭・コンサート・カラオケ大会・修学旅行など、多彩なイベントは留学生にとって異文化理解を深め、忘れがたい思い出になるであろう。

大連外国語大学は留学生の受け入れのみならず、学生の海外派遣においても力を尽くしている。海外の大学と連携して短期研修から長期派遣までの様々な留学プログラムを組んで、積極的に学生を送り出し、専門知識と外国語を学ばせると同時に、豊かな国際感覚を養成する。その事例として具体的に、本学の経済学部へ多くの留学生を送ってきたソフトウェア学院の取り組みについて考察してみたい。

3. ソフトウェア学院の取り組みについて

大連外国語大学は1994年6月に本学と友好交流基本協定を締結して以来、頻繁に相互訪問などを実施し、親睦を深めてきた協定校である。学生交流の分野においては、同大学は2020年9月まで本学に125名の編入留学生・13名の短期留学生を派遣してきた。そのうち、ソフトウェア学院の学生が九割以上を占めている。

2004年に設立されたソフトウェア学院は大連外国語大学の18の学院の一つである。現在、コンピュータ科学と技術・情報管理と情報システム・ソフトウェアプロジェクト・ネットワークプロジェクト・日本語(国際ビジネス)・英語(国際貿易)などの専攻がある。在籍学生数は約3400名である。近年、遼寧省に範を垂れるソフトウェア学部、大連市ソフトウェアとサービス・アウトソーシング産業発展先進機関、大連市

IT教育連盟メンバー、中国のサービス・アウトソーシング人材育成基地、遼寧省サービス・アウトソーシング人材育成基地となっており、中国のソフトウェア輸出とサービス・アウトソーシングの発展を促進する学院である。ここ10年来、200種類以上の教材や参考書を編纂し、233編の論文を発表し、100以上の教学研究プロジェクトを承認され、74項目の教学研究奨励を取得し、多くの成果を収めている。その上、実践的教學を重視し、多くの企業と協力関係を結び、学生に実習・就職の機会を提供できるようになっている。また、科目の構成にも特色があり、学生の就職競争力の強化を目指している。卒業生は二つの外国語と情報技術を身につけ、主に情報技術・ソフトウェア開発・ソフトウェアプロジェクト管理・電子ビジネスなどの分野において就職するのである。

国際交流においては、6ヶ国の26校の海外協定校と留学プログラムを通じて連携している。具体的には、日本（19校）・韓国（2校）・オーストラリア（2校）・アイルランド（2校）とイギリス（1校）から構成されている。学院における外国語授業は日本語、英語、

韓国語などが開講され、それがゆえに海外協定校は日本・韓国そして英語圏の国の大学となっているのである。留学プログラムについては、主にダブル・ディグリープログラム・交換留学プログラム・および学部から大学院へ、いわゆる「連続学習」プログラムなどにより構成されている。ダブル・ディグリープログラム(2+2)とは、学生が学院で2年次までの課程を修了した後、海外の協定校で2年間(3年次編入)の課程を修了することによって、双方の大学の学位を授与されるという制度である。そして、ダブル・ディグリー以外、3+1などのように学位の取得と関係なく、学術交流および人的交流を目的とする交換留学プログラムもあれば、また、3+1+1・3+1+2・4+1・2+1+2などの学部大学院連続学習プログラムもある。学部大学院連続学習プログラムとは、海外協定校へ留学する学生が所定の単位を規定期間内に取得することによって、学士と修士の学位を取得することができるプログラムである。2020年現在、日本の大学との主な留学プログラムは表(1)にまとめた通りである。

表(1) ソフトウェア学院と日本の大学における国際交流プロジェクト概要

協定校	プログラム	専攻	期間
九州共立大学	学士学位取得 (2+2)	経済・経営	2年
九州女子大学	学士学位取得 (2+2)	家政・人文	2年
亜細亜大学	学士学位取得 (2+2)	経営	2年
国土館大学	学士学位取得 (2+2)	アジア経済・文化	2年
城西大学	学士学位取得 (2+2)	経済	2年
城西国際大学	学士学位取得 (2+2)	経済・観光・福祉	2年
鹿児島国際大学	学士学位取得 (2+2)	経済・経営・文化	2年
岡山商科大学	学士学位取得 (2+2)	経済・経営・法学	2年
尾道市立大学	学士学位取得 (2+2)	経済・情報	2年
武蔵野学院大学	学士学位取得 (2+2)	国際文化	2年
長崎外国語大学	学士学位取得 (2+2)	日本語	2年
札幌大学	学士学位取得 (2+2)	経済・文化	2年
長野大学	学士学位取得 (2+2)	経済・環境	2年
北陸大学	学士学位取得 (2+2)	経営・教育	2年
桜美林大学	学士・修士学位取得 (3+1+2)	管理・福祉・言語	3年
京都情報大学院大学	学士・修士学位取得 (2+1+2, 3+2)	情報・メディア	3年・2年
武蔵野大学	学士・修士学位取得 (3+1+2, 4+2)	日本語	3年・2年
神戸親和女子大学	学士・修士学位取得 (2+2, 3+1, 4+2)	国際文化	2年・1年
山口大学	交換留学	人文	1年

そのうち、ダブル・ディグリープログラム(2+2)を通じて海外へ留学に行く学生は、交換留学や学部大学院連続学習プログラムに参加する学生より人数が多く、留学全体の約80%を占めている。海外協定校への入学時期は毎年の4月と9月という2つの時期がある

るので、留学関係の仕事は年間を通して行われている。2015年以来、海外へ留学する学生の人数が毎年およそ180名である。表(2)は2017年と2018年に本学を含めて幾つかの日本の大学と協同で国際化人材を養成する状況である

表(2) ソフトウェア学院と日本の大学と協同で国際化人材養成状況

年度	プログラム	人数	大学名
2017	2+2	148	九州共立大学・城西国際大学・北陸大学など9校
	3+2 など	59	京都情報大学院大学・武蔵野大学
	交換留学	8	山口大学
2018	2+2	94	九州共立大学・国士舘大学・亜細亜大学など10校
	3+2 など	19	京都情報大学院大学
	交換留学	4	北陸大学・神戸親和女子大学

ソフトウェア学院は、国際的・革新的・複合的・応用志向型の学生を育成するという大学の国際交流における指導理念を踏まえ、大学の国際交流センターおよびその他の関係部署との連携を図りながら、積極的に教員と学生を支援していく。国際交流に関する仕事を順調に実施するために、以下の3点に基づいて取り組んでいるのである。

3.1 教職員全員参加の指導方針

マネジメントチームから教職員全員に至り、ソフトウェア学院は、大学の国際交流活動を包括的に参画してサポートする。特に近年では、大学間(大連外国語大学と海外協定校)の交流プラットフォームを利用して、教職員を選出し、海外協定校への訪問・共同研究などの交流を実施している。これらの交流活動を通じて、学院所属の教職員が国際交流への理解を深め、大学の国際化を促進し、海外協定校との交流活動を積極的に展開していく。

3.2 学生が海外留学の前後とも積極的に支援

(1) 学生が海外へ留学する前に積極的に育成すること。

今まで学生からの相談を受身的に受け入れることから一転して積極的に留学促進活動を展開させることで学生を自発的に支援する。国際交流を携わる教職員は学生が入学してから大学の4年間を通し、学生に向けて学院における留学プログラムの紹介に全力を尽くす。具体的には、留学プログラムのことについて入学式後のオリエンテーションで新入生に対して説明し、毎年10月に各学年向けの説明会を開催する。また、チューターや事務スタッフを通して、クラスミーティング・

オンラインのWeChat・QQ・学院の国際交流専用のウェブサイトなどを通じて、学生に留学プログラムについて情報をシェアし、関心のある学生に個別指導や支援をするプラットフォームを提供する。留学情報の公開・海外協定校説明会の開催・学生の大学選択・志願書・入学試験・入学書類・在留資格認定資料の作成など、海外にスムーズに行けるまで全力でサポートする。また、留学プロセス全体を通して学生にはいつでも相談でき、ガイダンスや合理的な提案を得ることができプラットフォームを提供する。

(2) 学生が海外留学に行った後、アフター支援を遂行すること。

学生が海外に行った後は、海外協定校とコミュニケーションを取り合い、学生が海外へ留学する調整期間をスムーズに過ごせるよう、海外協定校に学生の生活および学業関係の支援を依頼する。海外協定校との良好なコミュニケーションシステムを確立し、学生の健康と安全および学業状況と精神面の状況について頻繁に交流を行っている。さらに、学生が学部から卒業後の進路(進学・就職など)についての情報収集にも力を入れ、海外へ留学する学生の情報ファイルを作成する。海外協定校により、高く評価されている学生の進路情報を後輩にシェアし、後輩に参考を与えている。このように、学院の国際交流を促進するために教職員全員が一丸となり努力しているのである。

3.3 三つの方向に向け国際交流へ展開する

(1) 海外へ留学する学生人数を維持しつつ、質の向上を心掛けること。

現在の海外へ留学する学生人数を維持しながら、学生の素質向上にも配慮し、質の高い留学プログラムを構築していく。例えば、ダブル・ディグリープログラムを通じて亜細亜大学へ留学した学生が、GPAが高く取り、卒業後の進路もよく、協定校から高く評価されている。また、学院の国際交流支援課が主催する国際交流週間というイベントを通して、尾道市立大学などの公立大学と積極的に連絡を取りあい、提携の方向へ順調に進めている。海外協定校の範囲拡大とレベルアップすることによって、学生がより多くの留学先を選択することができるようになっている。2015年以降、留学プログラムを通じて海外へ留学する学生のうち、76名が東京大学・京都大学・大阪大学・九州大学・早稲田大学・慶応大学などの有名大学の大学院へ進学することができた。

(2) 学生交流を通して教員交流と学術交流を促進すること。

海外協定校との留学プログラムを積極的に展開することに伴い、大学間の教員訪問交流プログラム・学術交流プログラムも積極的に展開されている。要するに、留学プログラム・教員訪問交流プログラム・学術交流プログラムを通じ、全面的な交流体系を構築していくのである。海外協定校に積極的に働きかけた結果、2015年以降、毎年約10名の教員を海外協定校に派遣し、教育と研究の交流を行っている。派遣された教員は、海外の先進的な教育理念に触れ、視野を広げるだけではなく、自分自身の教育と研究のレベルを向上させると同時に、学院の国際交流促進の役割も果たしている。学院の国際交流プラットフォームを通じ、8名の教員が海外協定校の大学院（博士課程）に進学し、そのうち3名が博士学位を取得することができた。また、学院は毎年海外協定校から教授や学者を招聘し、学術講演や若手教員との交流活動を行うことにより、学院の更なる発展を推進することができた。さらに、大学の国際交流センターの指導と支援を受け、国際交流プラットフォームを利用し、教員が海外へ交流するために国の留学基金委員会の公的資金援助を積極的に申請し、この間、教員1名がこの支援金を獲得することができた。

(3) コンピュータ専攻関係の国際交流を積極的に展開すること。

学院では、海外へ留学する予定のある学生に対する指導と管理を段階的に、且つ入念に対応している。学

生たちの興味・外国語能力・学習成績に応じて個別指導を行い、学生一人ひとりの強みを最大限に発揮させ、留学の夢を叶えるように努める。学院にはコンピュータに興味を持っている学生が多いため、情報処理関係の学科をメインとする大学と積極的に連絡を取り、学生のコンピュータ関係の領域で就職するという夢を実現させるように取り組んでいる。一例を挙げれば、北陸大学のIT専攻と北陸高等科学技術研究所との2+2+2という学部修士連続学習プログラムを通じて、学院の9名の学生が北陸高等科学技術大学コンピュータ専攻に進学することができた。そして、海外の研修拠点を最大限に活用し、就職市場を拡大することによって、学生の就職率も社会からの評価も向上しつつある。2013年以降、計177名の学生が京都情報大学院大学の研修拠点へインターンシップに参加し、そのうち、日本で働く意欲のある学生が会社の正社員採用の筆記試験や面接に応募し、41名が日本のIT企業に就職することができた。また、オーストラリアのウロンゴン大学・イギリスのスウォンジ大学・アイルランド国家学院大学・アイルランドのリムリック大学など、コンピュータ知識を要する情報処理学科を重要視している大学との提携も順調に進んでいる。

ソフトウェア学院の国際交流は、今後の課題として主に以下の2つが挙げられる。まず、英語圏の国々へ留学する学生が少ないため、英語圏への留学人数をどのように増加させることについて検討すべきである。その2は、国際交流の取り組みを通して、学院における授業の国際化を如何に強化して、国際化の特色を今まで以上に作り上げることができるのか、もっと幅広く柔軟に考えなければならないことである。学院は大学本部の国際交流センターをはじめ、各関係部署と緊密に連携を取りながら、複合型・応用型・国際化の大学運営理念を真剣に実行した上、学生の多元化発展と需要を満たすためのプラットフォームを提供し、大連外国語大学の知名度と影響力を高めるために貢献しようと考えているのである。

4. おわりに

大連外国語大学における国際交流と留学生の受け入れ体制および日本への学生派遣の実態を調査し、とりわけソフトウェア学院の取り組みについて考察してきた。海外研修・短期留学および長期派遣などの国際交流プログラムを通して、海外協定校からの留学生の受け入れを促進し、学生の国際社会への関心を高め、海

外への留学に繋がっていくために、留学生教育に携わる教職員は、情熱と責任感、そして国際理解の意識を持って職務を全うしなければならない。留学生支援制度奨学金の活用や、実践的な語学教育の強化、および単位認定などの課題が残っているが、大学の各関係部署は緊密な連携を図り、可能な限り留学生のために最善のサービスを提供することが求められている。

知識基盤社会のグローバル化が進展する中、国境を越えた学生の流動性が高まるにつれ、大学における国際的な競争が激しくなる一方、協同・連携の動きも加速している。学生募集から企業への就職（あるいは大学院への進学）などを含む出口までの一貫した留学生教育においては、大学の教職協働によるきめ細やかな指導とサポートを施さなければならないと思われる。

〔注〕

- 1) 孔子学院とは、中国政府が世界各国の大学等と提携してその地に設立する中国語および中国文化に関する教育機関である。中国語と中国文化の教育を通じて、世界各国との相互理解と友好関係を促進し、継続的な世界平和と相互発展への貢献を目的とする。2020年現在、世界162カ国・地域に550の孔子学院が設立され、専任・非常勤講師の総数は約5万人、学生・受講生の総数は2500万人に達している。日本国内には、立命館大学や早稲田大学・桜美林大学など15の大学に孔子学院がある。なお、大連外国語大学は岡山商科大学と提携して2007年9月に孔子学院を設置した。
- 2) HSKは、中国の教育部が設けた「漢語水平考試」(Hanyu Shuiping Kaoshi) の頭文字の略称で、中国語を母国語としない中国語学習者のための唯一・公認の中国語能力認定標準化国家試験である。

参考文献

- 1) 白土悟 (2011) 『現代中国の留学政策—国家発展戦略モデルの分析』九州大学出版会。
- 2) 高城玲 (2017) 『大学生のための異文化・国際理解—差異と多様性への誘い』丸善出版。
- 3) 宮崎里司・春口淳一 (2019) 『持続可能な大学の留学生政策—アジア各地と連携した日本語教育に向けて』明石書店。

〔付記〕

本稿は、令和2年度九州共立大学特別教育研究費(プロジェクトテーマ:「国際交流における留学生の受入

促進と海外留学の推進に関する研究——大連外国語大学と本学の取り組みを中心に——」, 研究代表者: 黄冬柏) の助成を受けて行った研究調査に基づいて作成したものである。

Received date 2021年1月8日
Accepted date 2021年1月22日